

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 13 日現在

機関番号：33905

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24330178

研究課題名(和文) グロ - バル化する介護労働と福祉国家における女性の役割：国際比較調査からの考察

研究課題名(英文) The Globalization of Care Work and the Women's Role in the Welfare States: the International Comparison

研究代表者

杉本 貴代栄 (SUGIMOTO, Kiyoe)

金城学院大学・付置研究所・客員研究所員

研究者番号：20206428

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,800,000円

研究成果の概要(和文)：介護労働は「女性向きの仕事」であるという「ジェンダ - 規範」があるため、従来から女性により安上がりに担われてきた。さらに近年では、介護労働者が国際的に移動するという「グロ - バル化」という問題も生じている。これら今日の介護問題を国際比較するために、介護労働の異なるパターンを持つ、米・デンマーク・韓国・中国の介護労働の実態を調査した。その結果、日本の介護労働の特徴として、他の類型よりも「性役割に依存する類型」であることが明らかとなった。「ジェンダ - 規範」に基づく日本の介護労働は、きわめて女性への依存が高いこと、その解決が緊急な課題であることが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：As the gender model to designate women for care work exists, the work has been carried by cheap women labor up to now. Further, in recent years, the labor globalization issue has come to the surface due to the international transference of care workers. Under this environment, in order to conduct the comparison among countries, the study on the care workers actual conditions has been conducted in the US, Denmark, Republic of Korea and People's Republic of China, the each of which has the different care work pattern from others. The study reveals that Japan in particular has the pattern that care work relies on gender role more than other countries. The care work originated from gender patten depends on women highly and the solution to this issue is an urgent issue, the study concludes.

研究分野：社会福祉学

キーワード：介護労働 ジェンダ - 介護保険 ホ - ムヘルパ - 家族介護

1. 研究開始当初の背景

当研究グループが研究を開始した当初は、我が国はすでに超高齢社会に突入し、介護問題が社会的な問題としてたびたび取り上げられる状況にあった。一方で、介護を行う家族として、あるいは介護労働者として、女性が抱える介護負担が重く深刻なことが注目されるようになった。介護労働は「女性向きの仕事」であるという「ジェンダ-規範」があるため、従来から女性により安上がりに担われてきたが、2000年(平成12年)から実施された介護保険制度により、一掃の拍車がかかったと感じられる。制度実施直後には利用者は少なかったのであるが、実施後数年が経過し、介護保険を利用することが一般的になればなるほど、「介護労働の女性化」は進展したといえるだろう。更にそれに加えて近年では、介護労働者が国際的に移動するという「グローバル化」という新たな問題も生じている。1990年代に入ると、このような「古くて新しい課題」を抱える日本の介護労働の特徴を明らかにすることが、研究課題としてたびたび取り上げられるようになった。ここに来て、やっと「介護とジェンダ-」が結びつき、研究課題として取り上げられるようになったのである。

「介護とジェンダ-」は今まで取り上げられることが少ない研究課題ではあったが、全く取り上げられるこのなかった課題ではない。少ないながらも先行研究はいくつかあげることができる。特に1990年代に入ってから、高齢社会が抱える介護問題が深刻化したこともあり、「介護と女性」を研究テーマにすることが増加し、先行研究もいくつかあげることができるようになった。しかし、「介護とジェンダ-」を国際比較するという研究はほとんど存在することがなく、国際比較研究自体の困難さもあるためであろうが、研究開始の当初としては、ほぼ初めての試みであったと言えるだろう。本研究テーマは、このような背景のなかで取り組まれた、独自の稀有な研究課題であったと言える。

2. 研究の目的

高齢社会に突入し、超高齢社会への道を進みつつある我が国にとっては、高齢者の介護問題は緊急かつ深刻な課題である。介護労働は「女性向きの仕事」であるという「ジェンダ-規範」があるため、従来から女性により安上がりに担われてきたが、介護保険の進展はさらにその傾向を強めつつある。また近年では、介護労働者が国際的に移動するという「グローバル化」という問題も生じている。このような「古くて新しい課題」を抱える日本の介護労働の特徴を明らかにするために、介護労働の異なるパターンを持つ、アメリカ・デンマーク・韓国・中国の介護労働の実態を調査し、福祉国家における介護労働の類

型化を試みることにした。国際調査はさまざまな困難が伴うけれども、当研究グループはすでに過去に科学研究費助成をいただいて、アメリカとデンマークにおいて聞き取り調査を行った経験と人脈があるために(研究テーマは今回とは異なり、「シングル・マザーの比較調査」及び「シングル・ファザーの比較調査」であったが)、今回の国際調査も可能であると判断した。

研究の目的としては、(家族介護も含めて)高齢者介護に関する労働に関して異なる特徴を持つこれら4カ国を国際比較研究することにより、高齢者介護労働に関するパターン(類型)を導き出すことである。そのような類型を導き出す事により、日本の介護労働が抱える諸問題について、より特徴的な点を明らかにし、日本の介護労働の特徴を詳細に検討する機会とすることが本研究の目的である。

またそれらの目的に加えて、本研究の最終的な目標としては、福祉国家における女性の役割を再考し、ジェンダ-偏在のない福祉政策を考察し提案することにある。

3. 研究の方法

介護労働に関する事前の研究、また予備国際比較研究から私たちの研究グループは、まずは以下のような介護労働の類型を導き出した。性役割に依存する類型(日本)、移民やマイノリティーに依存する類型(アメリカ、また移民政策により外国人労働者に依存する韓国もこの類型に属する)、農村からの出稼ぎに依存する類型(中国)、職業としての保障を高めることにより女性の仕事として定着させる類型(北欧)の4類型がそれである。この4類型の仮説を立証するために、それぞれ対象とする各国で3~4カ所の介護労働を提供する機関・施設において介護労働の実態調査を行った。また、各国の介護労働に関する統計資料、政策に関する資料を収集し、各国における政策担当者への聞き取り調査も実施することとした。

研究初年度の2012年度(平成24年度)には、統計資料収集と現地調査の準備のために、アメリカ、韓国、中国に研究分担者を派遣した。中国と韓国においては、準備段階の調査は既に終了していたため、他国に先駆けて実地調査を行った。もちろん日本においても同様に、介護保険による介護サービスを実施する公的機関・民間機関の責任者、ケアマネジャー等に介護サービス実施の実態についての聞き取り調査を実施した。

2013年度(平成25年度)には、類型化を実証するための本調査を実施した。それぞれの国において、介護労働提供機関(高齢者施設等)3~4カ所を選択し、そこでの介護労働者の実態調査を行った。調査する施設数はそれぞれ3~4カ所と数は多くはないながらも、対象施設に多様性を持たせることによ

り、平均的な介護労働の実態が明らかにできるように工夫した。そのような実態調査をアメリカ、デンマークで行った。2014年度（平成26年度）と2015年度（平成27年度）には、韓国・中国において同様な調査を行った。特に中国と韓国の場合、高齢者政策が後発ながらも急速に整備されつつあるため、追加の資料収集や行政担当者への聞き取りが必要となり、2国への調査が集中した。特に韓国は、日本をモデルとした公的介護保険を施行しているため、他国よりも頻度の多い実態調査を行った。最終年度である2015年度（平成27年度）には、研究のとりまとめと図書の発行を行った。

4. 研究成果

上記したような各国における実態調査を実施し比較検討した結果、私たちの研究グループは、介護労働に関わる以下のような類型化を実証することができた。性役割に依存する類型（日本）、移民やマイノリティーに依存する類型（アメリカ・韓国）、農村からの出稼ぎに依存する類型（中国）、職業としての保障を高めることにより女性の仕事として定着させる類型（北欧）の4類型がそれである。それらの比較検討から、日本における介護労働の特徴として、家族介護においても介護労働としても、「ジェンダー規範」に基づく女性への依存が他国と比較しても極めて高いこと、「介護の女性化」が急速に進展していること、その解決が取り組まれるべき緊急な課題であることが明らかとなった。

また上記のような当初から予定され、予想されていた研究成果に加えて、研究開始時には予想していなかった新たな研究成果を得ることができた。「ジェンダー規範」に基づく日本の介護の特徴（家族（女性）に依存する介護）をより詳細に検討するために、日本を含む東アジアにおける介護実態を複数回調査することにより（とくに平成26年と27年度において）、日本における介護の特徴（あるいは日本式の介護と言っても良いかもしれない）が東アジアを中心に普及していること、それを明らかにできたということであった。特に中国調査を行った北京市、上海市、青島市、大連市においては、その規模の大小はありながらも、介護サービス提供会社がある程度普及していて、そのうちのいくつかは、日本の介護サービス提供会社が運営していたことは新たな発見であった。韓国ソウル市において行った数回の調査からも、同様な介護サービス会社の存在が確認できた。中国も韓国も本研究が明らかにした4類型でいえば、日本とは異なる類型に属するものの、家族介護（女性）を中心としながら、安価な介護サービス労働（女性）を持ってして家族介護を補填しているという点については、3国ともに共通していることであった。このよ

うな新たな研究成果が発見されたために、同様な問題を抱えるであろう東アジアの国である台湾を調査することも予定はしていたのであるが、研究期間の終了が間近となったこと、また当初においては早い時期に予定されていた台湾の公的介護保険制度の実施が遅れたこと（2016年実施予定）等により、今回の研究期間中に台湾を調査対象とすることを諦めたという経過がある。次回の機会には、介護保険実施後の台湾を是非調査対象に含めて、公的介護保険制度を実施している日本・韓国・台湾の3国に共通するであろう、東アジアにおける介護におけるジェンダー課題を比較検討したいと考えている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

杉本貴代栄「グロ・バル化する介護労働と福祉国家における女性の役割：韓国のケースから考察する」『金城学院大学論集社会科学編』第11巻 第2号、2015年、pp15-25、査読無

杉本貴代栄「韓国の介護保険：ジェンダーの課題から」『金城学院大学人文・社会科学研究所紀要』第16号、2012年、pp47-56、査読無

〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計 2 件）

乙部由子・山口佐和子・伊里タミ子編著「社会福祉とジェンダー」ミネルヴァ書房、2015年、376ページ

杉本貴代栄「福祉社会の行方とジェンダー」勁草書房、2012年、203ページ

〔産業財産権〕
出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：

権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

杉本 貴代栄 (SUGIMOTO, Kiyoe)
金城学院大学・付置研究所・客員研究所
員
研究者番号：20206428

(2) 研究分担者

大塚 陽子 (OTSUKA, Yoko)
立命館大学・政策学部・教授
研究者番号：30368021

乙部 由子 (OTOBE, Yuko)
名古屋工業大学・工学(系)・研究科(研
究院)・その他
研究者番号：20457914

山口 佐和子 (YAMAGUCHI, Sawako)
愛知県立大学・公私立大学の部局等・そ
の他
研究者番号：90574343

(3) 連携研究者

流石 智子 (SASUGA, Tomoko)
京都華頂大学・現代家政学部・教授
研究者番号：40132287

遠藤 清江 (ENDO, Kiyoe)
京都女子大学・家政学部・講師
研究者番号：30326714